

— ふるさとを愛し未来を拓く子の育成をめざして —

新居浜市一宮町一丁目5番1号 学校教育課
(0897) 65-1301

学びにも進化を



『ESD授業づくり研修会（第2回）』

～ESDで学校を変える！ ポストコロナのESD、SDGs～



10月3日（土）、愛媛大学教育学部1号館において行われました『ESD授業づくり研修会』に参加してきましたので、その研修会で学んだことを共有したいと思います。

今回の研修会は、日本ESD学会副会長（江東区八名川小学校前校長）である手島利夫先生を招聘して行われました。手島先生は、東京都の公立小学校の校長先生として、ESD（持続可能な開発のための教育）を学校全体で推進し改革してきたESD実践者であり、ESDカレンダーの生みの親です。

（その1）カリキュラム・マネジメントって何？

第6学年 「未来にはばたけ」学習カレンダー

江東区立八名川小学校

教科領域	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語					未来がよりよくなるために					
算数										
理科										
社会										
総合										
英語										
特活										
道徳										
音楽										
図工										
体育										
家庭										

カリキュラム・マネジメント
従来の教科分断的な発想から、教科横断的な発想への飛躍が必要！

① SDGsの視点から未来について、自分の考えをもつ

② 戦争中の生活や人々の願いを知る

③ 将来の夢について考え、自分を見つめる

④ 将来の自分の姿を想像し、立体作品を作る

⑤ これからの日本について考える

⑥ 自分がなりたい職業を選び、実現への道筋を調べる

⑦ 調べたことを地域・保護者に発表する

⑧ 世界の現状を見つめ自分の生き方・学び方について考える

未来にはばたけ！

新しい日本、平和な日本へ

世界が100人の村だったら

12年後の私

八名川まつり 卒業式

環境の教育 多文化理解 人権・命の教育 学習スキル

これがESDカレンダー！
各教科が分断されるのではなく、教科横断的な発想から、この観点で共通の内容を洗い出し可視化したものです。先生の意識も変わります。

ここにある「カリキュラム・マネジメント」とは、学校の教育目標の実現に向けて、子どもや地域

の実態を踏まえ、教育課程（カリキュラム）を編成【Plan】→実施【Do】→評価【Check】→改善【Action】という一連のPDCAサイクルを計画的・組織的に推進していくことです。また、そのための条件づくりや整備のこともあります。

身に付けた知識や情報の活用、問題の発見とその解決の能力を高め、グローバル化・情報化が進みながら、激しく変化する社会（世界の条件は日々変わり、決まった正解のない社会）に対応できる資質を身に付けるためには、どのような教育が必要だと思いますか？

（その2）カリキュラム・マネジメントの必要性とは？

変化の著しい現代社会に取り巻く様々な問題について、しなやかに対応し、たくましく解決への道を切り拓く資質を育てるためには、教科を横断した学習が欠かせません。各教科等で学んだことを総合力として適切に活用し、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手を育成することが大切です。この考え方は、ESD そのものです。そして、その教科横断的な学びに絶好の場があります。『総合的な学習の時間』です。まさに、各教科で学んだことを総合的に活用し、探究的・問題解決的な学びをするための絶好の時間であることは間違いありません。

手島先生はこの時間を進めるにあたり、『こどもの学びに火をつける』ことが大切であり、次の3つのステップを意識すべきだと言われています。

『こどもの学びに火をつける』際の3つのステップ

①	②	③
＜問題に気づかせる＞	＜火をつける＞	＜テーマを決める＞
1) 体験活動や提示資料をもとに 基本的な事実と出会う 2) 体験したり資料を見たりしたこと、多様な気づきや感想などをもち、それを共有する	3) 教師が提示したり、子どもが調べたりして出合った 矛盾する事実や意表をつく話や資料 等から 疑問を感じ、書き出す	4) グループや学級全体で疑問を出し合い、 分類・整理してまとめ、学習問題をつくる 5) 問題について、自分なりの予想をする
親しみ・憧れ・共感	それらをひっくり返す	疑問から学習問題へ

子どもの疑問に「それはね．．．」とすぐ答えるのではなく、まずは、その気付きを認めて褒め、解決に向けた意欲を喚起すべし。

令和2年度『地域とともにある学校づくり』推進フォーラム in 愛媛（11月5日）

大会テーマを『これからの学校づくりと地域づくり～「社会に開かれた教育課程」から～』と掲げ、文部科学省、愛媛大学教育学部、愛媛大学教職大学院の主催により開催されました。当初は、松山市において、参集型フォーラムとして実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、デジタルフォーラム（限定公開）の形態で開催することとなりました。事例発表では、新居浜市立泉川小学校の高橋美鈴校長先生が『「大好き泉川」地域協創への挑戦～社会に開かれた教育課程の実現～』というテーマですばらしい発表をされました。

フォーラムの様子は、11月5日（木）から約1か月間、自由に視聴できますが、参加登録が必要となります。視聴ご希望の方は、『学びの未来』で検索し、メルマガへのご登録（無料）をお願いします。

2020年
11月5日(木)
参加無料

令和2年度『地域とともにある学校づくり』推進フォーラム in 愛媛

大会テーマ
●●●「社会に開かれた教育課程」から●●●

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校の連携・協働を進めるため、コミュニティ・スクールと地域学校価値活動の一体的な推進を目指しましょう。

第一部：ビデオ・オン・デマンド 10:00 配信スタート

【開会行事】

- 総会あいさつ 愛媛大学教育学部 学部長 小畑川元太
- 行政説明 愛媛大学教職大学院 専攻長 露口 登司
- 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課

【第一部】

● 基調講演

- (1) コミュニティ・スクールの可能性～導入事例の検証と具体的な実践を通して～ 愛媛大学教職大学院リーダーシップ開発コース 宝本 将
- (2) コミュニティ・スクールで育てる児童の個性性 (Personality) 愛媛大学教職大学院リーダーシップ開発コース 井出 利弘

● 事例発表

- (1) 「大好き泉川」地域協創への挑戦～社会に開かれた教育課程の実現～ 新居浜市立泉川小学校 校長 高橋 美鈴
- (2) 共創する「共同プロイデ」～C.Sとカリキュラム・マネジメント 宇和島市立城南中学校 主幹教諭 木村 貴博

● ネットディスカッション

- テーマ「基礎からの問い～学校と地域の協働について～」
- コーディネーター：愛媛大学教職大学院 特任教授 遠藤 敬吾
- パネリスト①学校：宇和島市立城南中学校 校長 山本 洗幸
- パネリスト②企業：愛媛県PTA連合会 副会長 室崎 暁
- パネリスト③地域：愛媛子どもチャレンジ支援機構 専務局長 山渡 茂徳
- パネリスト④大学：愛媛大学教職大学院 特任教授 高橋 美鈴

【参加方法】

デジタルフォーラムへの参加（原則）を希望の方は、検索欄向け検索用メールアドレスに「登録ください」文部科学省ホームページの検索欄で検索し、登録のうえ、メルマガにご登録ください。

【第二部：ライブ配信 13:30～14:40】

● マスター座談会「C.Sマスターが語る『これからの学校づくりと地域づくり』」

- コーディネーター：C.Sマスター 森 保之（高岡教育大学教職大学院 教授）
- スピーカー①：C.Sマスター 森松聖子（徳島県 舟山よし舟立三加治中学校 事務室長）
- スピーカー②：C.Sマスター 穂地 利由（高知県 高知市教育委員会 教育長）
- スピーカー③：C.Sマスター 野野 宗行（高知県 佐川町立南小学校 校長）
- スピーカー④：C.Sマスター 西村久仁夫（愛媛県 一宮市国造人コミュニティセンター 代表理事）

【閉会行事】

主催 文部科学省 愛媛大学教育学部 愛媛大学教職大学院
後援 愛媛県教育委員会 愛媛県市町教育委員会連合会 愛媛県PTA連合会